



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2018年10月17日発行

会長 澤井一徳 / 副会長 三好敏之 / 幹事 鶴田秀樹 / SAA 伊藤 保

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 / FAX 0848-86-0992 / E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

2018-19年度

国際ロータリー・テーマ
BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう



10月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
例会 休会 例会 地区大会 休会 職場例会

本日のプログラム (10月17日)

道の駅みはら神明の里 駅長 中石田国昭様
「道の駅みはら神明の里 運営状況」

次回のプログラム (10月21日)

地区大会 本会議 (びんご運動公園) 9:00 受付
懇親会 (屋内テニス場) 16:30~18:00

第1127回 2018年10月3日 例会記録

点 鐘 澤井会長

国歌斉唱 ロータリーソング「四つのテスト」

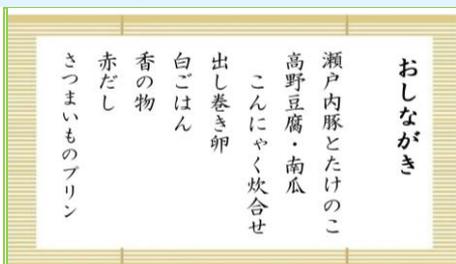
ビジター紹介

(竹原RC) 菅 義尚さん

出席報告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (10/3)	28 1	16	6	5 1	81.48
メイク	灰谷・伊藤佳子・兼田・松本・河井・重森				
前々回 (9/22)	27 1	17	3	6 1	76.92
メイク	灰谷、鶴田幸彦・楠部				

食事時間



地区補助金による贈呈式

特定非営利活動法人 けんけん・ぱ さんへ
(三原市円一町3丁目10番3号)

プロジェクター1台・スクリーン1台
スピーカー1組・パソコン1台寄贈



ポール・ハリスフェロー認証状贈呈式

乗越耕司さん



会長時間

先週の吉原ガバナーの公式訪問、多少緊張しながらではありますが、無事問題もなく終了しました。ご協力ありがとうございました。

10月に入り、1年の4分の3が過ぎました。10月は値上げの月で、最低賃金が毎年のごとく上がります。現在818円+26円で844円になり、1人当たり1か月約5,000円アップとなります。10人で5万円、年間60万円の増加し、大企業は関係ない金額ですが中小企業はそのまま影響が出ます。

たばこも値上がりしました。(私は関係ないですが)1箱約500円*30日で月15,000円小遣いも大変でしょう。年間18万円、夫婦でいい旅行ができます。計10年で180万円、50年でざっと1千万円です。禁煙して肺がんにならないようにしましょう。

毎週のごとく台風が接近しています。今度の台風25号は平成3年の台風19号に似ていると言われていて、広島県に大きな被害をもたらした台風で、リンゴ台風とも呼ばれ、広島で最大瞬間風速60m/秒を記録しました。九州～山口、上陸時点で940hpでした。台風進路を注視して防災に心がけましょう

今日は、けんけんば理事長土居野様の卓話をいただきます。後程よろしくお願いたします。



幹事報告

《配布物》週報1126号、公式訪問写真
ロータリーの友10月号、ガバナー月信
卓話資料、米山豆辞典
《回覧》チャリティバザー出欠表
職場例会出欠表
2019-20年度ガバナー補佐任命ご報告
R財団日本事務局ニュース
米山記念奨学会2017年度事業報告書
〃 決算報告書
米山梅吉記念館官報2018年秋号32

卓話時間

特定非営利活動法人 けんけん・ぱ
理事長 土居野真由美様



「水面下の想いを探る」

広島空港ロータリークラブの皆様こんにちは。
「特定非営利活動法人 けんけん・ぱ」代表をつとめております、土居野と申します。

本日は広島空港ロータリークラブ例会にお招き頂き、ありがとうございます。また、この度は、プロジェクター等上映機材一式を賜り、感謝申し上げます。ありがとうございました。

「特定非営利活動法人 けんけん・ぱ」は、『障害のある人が、生活のしづらさはいろいろであっても、ゆっくりと、自分なりに、生活の基盤を整えるためのお手伝いをする』団体として、活動を開始しました。平成16年10月設立、吹けば飛ぶよ～な小さな法人ですが、おかげさまで15周年を迎える年に入りました。

親子の年齢差を概ね30年と考えた場合、親亡きあと、障害のある人にはその後30年、それ以上と、長い人生が存在しています。

親がいなくても、くらしたい地域で

24時間365日！！

重度の知的障害のある子を持つ親御さんから寄せられた、生の、本音のつぶやき、ご紹介させていただきます。

- ➔ 「親は・・・いつだって休む間もなく、がむしゃらよ」
- ➔ 「施設に入る、入らない、じゃない。どんな暮らしをしてもいいはず！・・・それって、うちの子が言うたらいいけんことかねえ」
- ➔ 「この子のためとはいえ・・・親をずっと続けてやるわけにはいかんのよ・・・それが現実・・・」

家族から涙ながらにはき出される声を聞けば聞くほど、ひとりひとりがどう生きたいのか、どうありたいかと家族が願っているのか、障害のある人、重たい障害のある人の、ひとりひとり異なる、その人にとっての“あたりまえなこと”。地域生活であるとか、社会参加であるとか・・・それらを最前線で支えるパートナーのような『人』を増やしていきたいという使命のもと、タイムケア/レスパイトサービス/宿泊型生活体験事業など、全て私的契約でサービスを提供するという活動が、運営の骨格となっています。

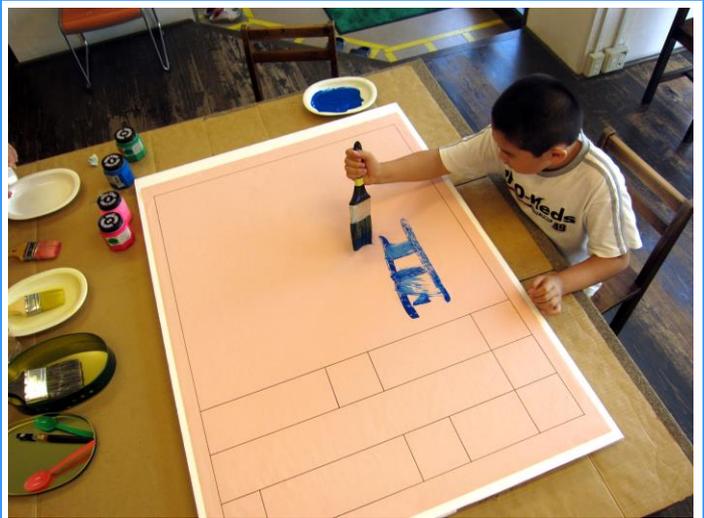
ひとりひとり異なる、“あたりまえなこと”。地域生活に必要な環境と支援の仕組みをつくる！目の前にいる障害のある人が、なんと言っているのか。本当の思いはどこにあるのか。それが制度にのらないニーズだとしたら、本当に応えていける現実的な手立てはないだろうか。私たちの使命は何か。制度の有無ではなく、反応できる活動の必要性があり、適切な環境と、支援の仕組みを作ろうと、分野・業種を問わず、関係者みなさまのご支援・ご協力のもと、法人運営の道をたどることになりました。

徐々に、徐々に、サービスをバージョンアップし、現在、生活介護事業、放課後等デイサービス事業、共同生活援助(グループホーム)、日中一時支援事業、相談支援事業の五つの事業を基本柱とし、障害のある子どもや大人、高齢者といった枠を取り払い、一人ひとりの状況にあった対応、また、虐待などの緊急時に権利擁護支援を行っています。障害者福祉制度は、平成15年4月の「支援費制度」導入により、従来の「措置制度」から大きく転換されました。障害のある人が事業者との対等な関係に基づき、自らがサービスを選択し、サービスを利用する仕組みとなりました。

しかし、導入後は障害種別（身体障害、知的障害、精神障害）の格差、サービス水準の格差など、新たな課題が生じてきました。強度行動障害を呈する利用者、高次脳機能障害等常に体調に不安のある利用者、身体的介護を要する利用者、心理的ケアの必要な子どもや大人たち、様々な障害特性を合わせもつ方が混在しており、多様な支援が求められています。障害特性を深く掘り下げ把握し、生活の広がりにつなげる具体的な取り組み課程には、専門性を要する状況も多岐にわたっており、メニューの細分化が非常に難しい状況となっています。

先程も触れました通り、目の前にいる障害のある人がなんと言っているのか。本当の思いはどこにあるのか。そのための『きっかけ』や、きっかけをたぐりよせる取り組みのひとつが、「ものづくり」です。

表現・創作の楽しさや喜びなど、本能的に感じる達成感や充実感を、いろいろな角度から展開しています。支援者側の価値観で、一律同じで、黙々とがんばってもらうのは違うと思い、ちよとずつ、ちよとずつ、時間を急がさず、また、ちよとずつ、丁寧に気持ちを動かしながら・・・。



スローな職人たちが、創作する上で起こる物理的・心理的困難を、寄り添いながら一緒に乗り越える方法を探っています。



法人主催の作品展示を兼ねたイベント開催においても、地域の方に、様々な障害

のある人の自由な表現やプロジェクトに触れることによって、意思のあるメッセージだと感じて頂いております。



今回、みなさまの温かな想いが込められた上映機材一式は、表現のプレゼンテーション拡大を図るため、イベントの内容に応じて、地域の方と障害のある人とのコミュニケーションを促進できる企画を展開する中で使わせていただこうと考えています。





最後に、『けんけん・ぱ』のテーマである、「地域で暮らしていく。ひとりひとり異なる“あたりまえなこと”を大切に。」につながる“うた”、『ノーマライゼーションの詩』をご紹介します。

『ノーマライゼーションの詩』

ノーマライゼーションとは、 一日の普通のリズム

朝、ベッドから起きること
たとえ君に重い知的障害があり、
身体障害者であっても、
洋服を着ること、
そして家を出、学校か、勤めに行く
ずっと家にいるだけではない
朝、君はこれからの一日を思い
夕方、君は自分のやり遂げたことをふりかえる
一日は終わりなく続く単調な24時間ではない
君はあたりまえの時間に食べ、普通の洋服を着る
幼児でないなら、スプーンだけで食べたりしない
ベッドではなく、ちゃんとテーブルについて食べる
職員の都合で、まだ日の暮れぬうちに
夕食をしたりはしない

ノーマライゼーションとは、 一週間の普通のリズム

君は自分の住まいから仕事場に働きに行く
そして、別の所に遊びに行く
週末は楽しい集いがある
そして月曜日にはまた学校や職場に行く

ノーマライゼーションとは、 一年の普通のリズム

決まりきった毎日に変化をつける長い休みもある
季節によってさまざまな食物、仕事、行事、
スポーツ、余暇の活動が楽しめる
この季節の変化の中でわたし達は豊かに育てられる

ノーマライゼーションとは、 あたりまえの成長の過程をたどること

子どもの頃は夏のキャンプに行く
青年期にはおしゃれや髪型、音楽、
異性の友達に興味を持つ
大人になると、人生は仕事や責任でいっぱい
老年期はなつかしい思い出と、
経験から生まれた知恵にあふれる

ノーマライゼーションとは、 自由と希望を持ち、 周りの人もそれを認め、尊重してくれること

大人は、好きな所に住み、
自分にあつた仕事を自分で決める
家にいてただテレビを見ていないで、
友達とボーリングに行く

ノーマライゼーションとは、 男性、女性どちらもいる世界に住むこと

子どもも大人も、異性との良い関係を育む
十代になると、異性との交際に興味を持つ
そして大人になると、恋に落ち、結婚しようと思う

ノーマライゼーションとは、 平均的経済水準を保証されること

誰もが、基本的な公的財政援助を受けられ、
そのための責任を果たす
児童手当、老齢年金、最低賃金基準法のような
保障を受け、経済的安定をはかる
自分で自由に使えるお金があつて、
必要なものや好きなものが買える

ノーマライゼーションとは、 普通の地域の普通の家に住むこと

知恵遅れだからといって、
20人、50人、100人の他人と
大きな施設に住むことはない
それは地域社会から孤立してしまうことだから
普通の場所で、普通の大きさの家に住めば、
地域の人達の中にもうまくとけ込める

(スウェーデン ベンクト・ニリエの言葉

『やさしい隣人達 共に暮らす地域の温かさ』より)

「あたりまえに」ということは、簡単なようで実にむずかしいと、ことあるごとに思う毎日ですが、それでもめげず、くじけずに、前へ歩もうと力をくれる詩だと思います。みなさまの胸にはどのように響きましたでしょうか・・・？ ご清聴ありがとうございました。